

妊娠するための条件

① 卵胞発育から受精までの女性側の条件

卵巣内で卵胞が成長
 排卵可能な卵胞へ成熟する
 十分に成熟した卵胞から排卵が起こる
 卵は卵管采により捕捉され、卵管膨大部へ移送

② 射精から受精までの条件

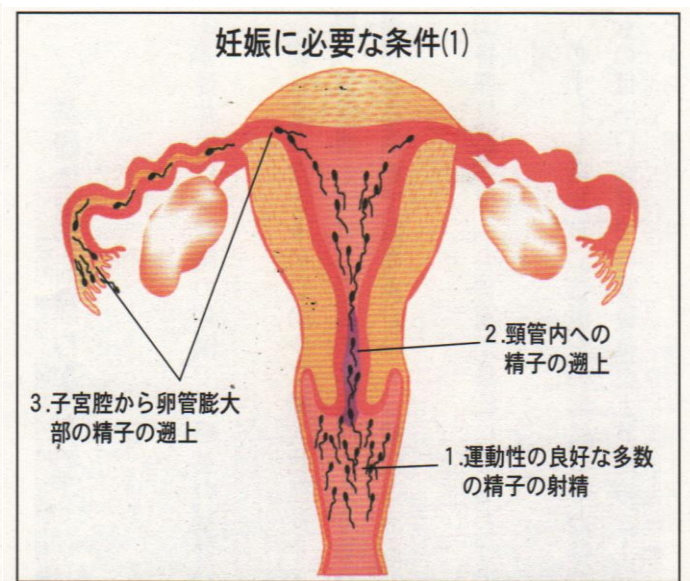
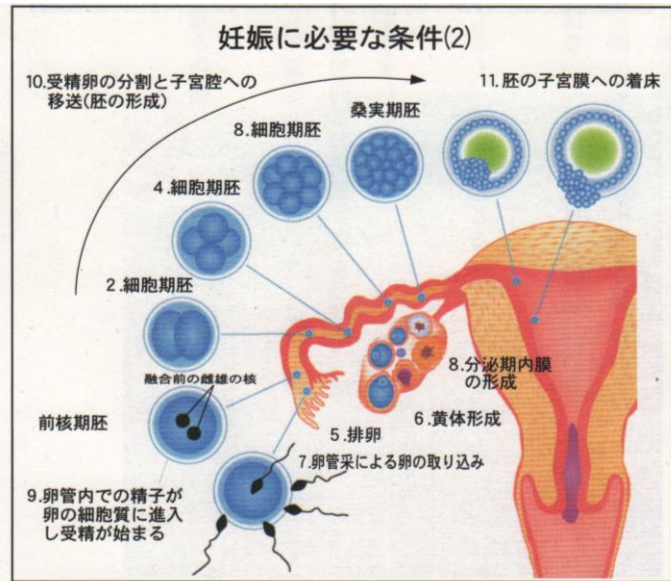
腔内に数千万から数億の精子が射精されることが必要
 子宮の入り口から子宮腔内へ続く頸管へ精子が遡上
 子宮内腔からその両側の上端に開いている卵管口から卵管内へ精子が遡上
 精子は卵管の中を遊泳し、その腹腔側の出口に近いところで卵巣から放出される卵を待つ

③ 受精から着床までの条件

精子が卵の中に入し核が融合する(受精)
 受精卵が分割し胚が形成される
 胚は細胞分裂を繰り返して胚盤胞という状態になって子宮腔へ移送される
 子宮内腔は肥厚し分泌期内膜へ変化し胚盤胞が着床できる環境を整える
 妊娠の成立
 妊娠の継続

正常精液所見 (WHOの基準、1999年)

精液量 — 2 ml以上
 精子濃度 — 1 ml中に2,000万個以上
 精子運動率 — 前進運動精子 50%以上、または高速推進運動精子 25%以上
 正常形態精子 — 30%以上
 生存率 — 50%以上
 白血球 — 1 ml中に100万個未満
 イムノビーズテスト — 50%未満の結合率
 MRAテスト — 50%未満の結合率



出典：荒木重雄・浜崎京子 編者『不妊治療ガイドンス』第3版 医学書院 2003年

※一般に、排卵日が接近した妊娠の可能性の高い時期に性交を持った場合、約20%の確立で妊娠が成立すると考えられている。

基礎体温で何がわかるか

①基礎体温は安静時の体温で、卵巣の状態を知る指標

朝目覚めたときに口の中に婦人体温計を入れて測定した体温をいう。ほぼ二週間の低温相とほぼ二週間の高温相がある場合は理想的排卵周期と考えられる。低温相と高温相で温度差が 0.3 度以上あるのが望ましい。

②排卵日に必ずしも体温が最低になるわけでもなく、排卵が起こるわけではない。

必ずしも排卵日に体温が最低になるわけではない。最終低温日に排卵を認めるものは 10% 弱で、基礎体温上昇期の $1\sim3$ 日間に約 75% が排卵する。このことから、最終低温日から基礎体温上昇期の三日間に排卵が起こるといえる（超音

波診断により証明されている）。

③高温相が 10 日以上持続しなければ黄体機能不全を疑う

排卵があったとしても高温相が 10 日以上持続しなければ黄体機能不全と診断され、着床障害の原因となることがある。

【黄体機能不全の診断基準】

- 1、高温相持続九日以内
- 2、高低の温度差 0.3 度以内
- 3、子宮内膜の厚さ 8mm 以内
- 4、プロゲステロン 10ng/ml 未満